

### 3. 手引きの構成・読み方

---

本手引きでは、次に示す調査・分析の実務の流れに沿って5つのステップを想定し、それぞれのステップにおいて調査・分析を進めるために必要な解説または参考情報について、章立てをして記述している。

- ・検討の対象とする都市交通施策について、当該施策の検討の枠組み（現況把握、分析・検討、計画策定の流れ）を選択する。
- ・施策に対応した地域・テーマに関して既存データを活用して現況把握を行い、課題や施策の目的の確認を行う。
- ・施策についての検討手順・手法を選択する。
- ・施策の検討に必要なデータ収集のために交通実態調査等を実施する。
- ・施策の実施中・実施後において評価指標等によるモニタリングを実施する。

#### ①施策についての検討の枠組みの選択 ⇒ 第5章

想定される施策（LRTの新規導入・延伸、路線バスの新規導入・再編、コミュニティバスの導入、MM、都市計画道路見直し）、入手可能なデータ、施策の影響範囲等を想定し、実態調査及び分析手法等の調査全体の枠組みについて、複数の選択肢を提供している。

#### ②既存データの活用による現況把握の実施 ⇒ 第6章

想定される施策（LRTの新規導入・延伸、路線バスの新規導入・再編、コミュニティバスの導入、MM、都市計画道路見直し）に対応した対象地域や交通課題に関して、既存データを活用して現況把握を行う場合の手法について、事例を中心に記述している。

#### ③施策についての検討手順・手法の選択 ⇒ 第7章

想定される施策のうち、LRTの新規導入・延伸、路線バスの新規導入・再編、都市計画道路見直しについては、需要予測の検討手順・手法について解説している。MMについては、フィージビリティスタディとしての実施と本格実施時の対象地区の選定の検討手順・手法について解説している。また、併記した参考資料も参照されたい。なお、施策と検討手順・手法との関係については図5-1に整理している。

#### ④交通実態調査等の実施 ⇒ 第8章

第7章で想定された検討、第9章で想定された評価指標等によるモニタリングにおいて、必要となる実態調査について詳細に解説している。検討場面に対応して必要となる実態調査の検討に当たって参考とされたい。

#### ⑤評価指標等によるモニタリングの実施 ⇒ 第9章

施策の実施による効果の把握に関して、想定される交通関連の評価指標を抽出し、必要なデータを整理し、評価指標を算出するための方法について概要を紹介している。

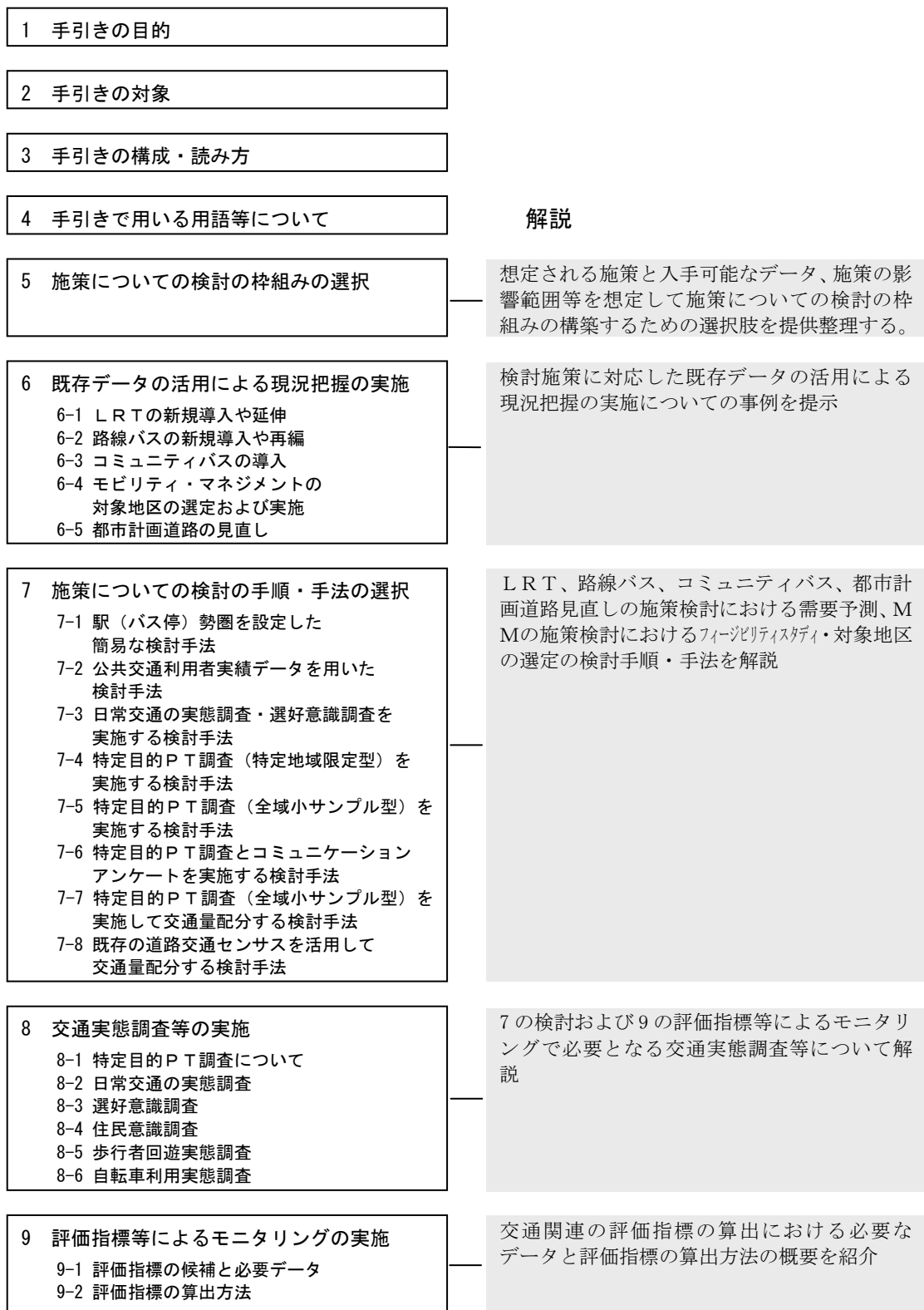


図 3-1 本手引きの構成